

女給諸君に檄す

女給と云ふものは、従来世間から離れ居る云はれてゐます。まるで人種でも異ふかの様に白い眼で見られ、藝妓か娼妓などの様に軽蔑されてゐます。何故女給は世間から、そんな風に取扱はれねばならないのでせうか。女給と雖も何等變る所なき人間であり、婦人でもあります。人間としての貴さも持つてゐれば、女性としての尊嚴も把持してゐます。私共女給は此の謂れなき世間の輕蔑迫害を除くと同時に、猶ほ男性の暴虐と資本の桎梏とから逃れなければなりません。

人間として生きて行く上に最も大切なことは、お互に扶け合ひ、愛し合ひ、そうして自由であり平等であることだと存じます。又私共が可憐労働に従事する上に最も大切なことは、技術の上達と、人格の向上と、従来世間から輕侮されてゐる地位の改善を圖ることであらねばなりません。然しながら個人としての私共は弱く、到底此の大事を成し遂げ、高遠なる理想に到達することは出来ません。そこで弱く力を集合して、岩をも貫くべき偉大なる力を持つべく組織したのが卓風會なのです。卓風會はその事業として、勤め口の無料紹介、機關紙「卓風」の發行、不時の災厄の救済、講演會、試食會等に依つて人格技術を練磨すること、事務所内の俱樂部で會員間の親睦を圖ることなどを遣つてゐます。

而して卓風會は今回新たに「女給部」を設け専ら女性の可憐労働者諸君の爲めに働く事となりました。時代に眼醒めた女給諸君は何を置いても先づ卓風會に御入會なさらなければなりません。

神戸市榮町五丁目四五
卓風會

電話元町二一五八(工務部中)

11.8.5